

九州海外協力協会だより



特定非営利活動法人
九州海外協力協会

副会長 挨拶

2022年・夏号

梅雨の時期、雨に濡れて色鮮やかに咲く紫陽花の美しさに心を癒される人も多いでしょう。「紫陽花や昨日の誠 今日の嘘」と正岡子規は詠んでいます。色が変わりゆく紫陽花は別名「七変化」とも呼ばれ、子規の俳句は移ろいやすい人の心を紫陽花に喩えて詠んでいます。

新年度になり当会も新しい人材と新たなプロジェクトを以て求められる多様性社会に果敢に挑戦してゆく所存です。本年度は計画以上のV字回復・還元を目指しますので、どうぞご期待下さい。 副会長：橋邊正之



事務局より

私は「ポツンと一軒家」というTV番組が好きで日曜日の夜の楽しみになっています。先月は2時間枠で放送されていました。なぜ人気なのでしょう、毎回放送されるポツンは電気や水道等のインフラが整っていないところ。道路が狭かったり急こう配で雪が多かったりと、生活には不便な場所にあります。しかし、登場される方々の暮らしぶりを見ていつも心がホッコリとするのです。なぜなのか、自分なりに考えてみました。多くの日本人の子供の頃の風景や理想郷がここに投影されていて、私たちの心を穏やかで幸せな気持ちにさせるからではないでしょうか。



写真1. 炎が消える前に



写真2. 荒れた棚田

TVタイトルのとおり、日本にあまた存在するポツンが急速に消滅しつつあります。次のポツン予備軍が発生し、それらもまた消滅し廃村地区となり地図から消えてゆきます。同時に小中学校の統廃合が進んでおり、私たちの母校もどんどん消えているわけです。年間の出生率が100万人を切ったら大変なことになると20年前に言われていたことが2016年ついに100万を割り2021年は81万人と毎年最小出生数を更新し続けています。過去5年間で日本人の人口が178万人減少する一方で、流入人口は84万人増えていて、日本の国柄が減退している現状を心配しています。

事務局より ～続き～

ポツンには、豊かな自然がある。日本人の暮らしがそこに投影されている。不便だからこそ都市生活では味わえない、ゆったりとした環境と時間の流れがある。当会はこのポツンが日本の宝物の一つだと考えています。芯が細くなつたらうそくにもたとえられ、それらが一つまたひとつと消えてゆくのがとても残念です。



写真3. 消えゆく地元の神事



写真4. 廃線

視点を変え私たちが、もしスペインやフランスでその土地の昔ながらの田舎暮らしを体験したいと旅行を計画するとしたら、このようなポツンを最適な場所として選ぶのではないのでしょうか。昔ながらの日本人の生活を体験したいと思う外国人にとっても、これらのポツンは垂涎ものではないかと想像します。当会が考える地方再生プロジェクトはこの部分に光をあてたいと考えています。一度消えたら再生は困難、消える前に、昔のような子供の笑い声がする集落に再生し廃村をストップさせたいと考えています。

事務局長 丸田隆弘

着任のご挨拶

2016年に西アフリカのセネガル共和国に小学校教諭として派遣しておりました。現地では、情操教育の企画・実施、授業づくりなどを行いました。大学在学中、JICAボランティアの存在を知り志し、卒業後、アフリカへ行きました。現在は開発教育を担当しております。開発途上国・先進国を問わず、“教育”に興味があります。これから、楽しい企画を立ち上げたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

は ぶ し ほ
羽生 志穂



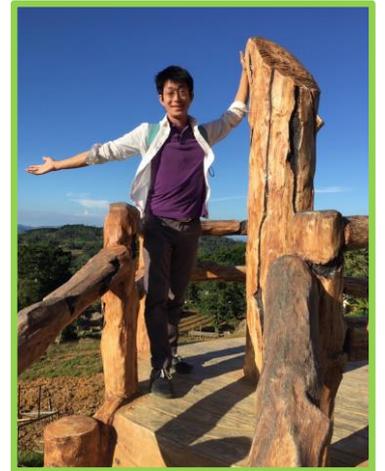
あかし しゅうへい
赤司 周平



当協会では主にJICA海外協力隊の募集説明会を担当しています。JICA海外協力隊では、2015年から2017年の2年間、西アフリカのベナンで稲作栽培隊員として活動していました。小学校の頃に見たテレビで海外でのボランティア活動に興味を持ち、自分にできることはないかと思い、海外協力隊に応募しました。

多様な文化や価値観があるこの世の中、私が得た経験を少しでも多くの方々にご提供できれば幸いです。

はらぐち じゅんいち
原口 純一



こんにちは。私は、学習塾の英語講師を経て、フィリピン・セブ島にある英語学校で英語教育部門の責任者をしておりました。明るく楽しいフィリピン人先生たちと試行錯誤しながらカリキュラムを創り上げたことは良い思い出です。また、日本や世界の文化に興味があります。茶道（博多発祥の南坊流）を7年間習っており、世界遺産検定2級を持っています。最近では、丸田事務局長の影響を受け、スペイン語を学習しています。

業務では、海外からの研修員交流プログラムや開発教育指導者研修を主に担当しています。「教育を通して、日本と世界の架け橋に」をモットーに努めてまいります。よろしくお願いいたします。

なかもと かつや
中本 勝也



こんにちは、4月よりNPO九州でお世話になっている中本勝也と申します。私は、2005年2次隊で中東のイエメン共和国に派遣されていました。職種は体操競技です。3月まで10年間民間企業でお世話になっておりましたが、国際協力の分野で働きたいという思いを忘れられず、NPO九州の門を叩かせていただきました。今また、国際協力の世界にいるという有難さを忘れず、協力隊時代にお世話になった現地の方々や仲間への恩返しができるよう邁進いたします。国際協力は「国際相互協力」です。

お互いの中にある“Interaction”を大事に、時にある“Friction”を乗り越えて、これから、ゆっくり走り続けます。10年後に「よくまあ、ここまで俺たち来たもんだな」と言えたら最高です。

なかのせ ひろあき
中ノ瀬 寛明

みなさま、はじめまして。小学3年生の頃にインド農村部に行く機会があり、その時に初めてストリートチルドレンの存在を知ると同時に、世界の広さを感じました。この体験が原動力となり、国際協力に携わりたいと考えるようになり、2017年から2年間、JICA海外協力隊としてインドネシアでゴミのポイ捨て防止や、リサイクル促進のための環境教育活動を行いました。

現在は主にJICA九州センターが実施する、国際協力出前講座を業務として担当しております。当協会の事業を通じ、多くの方に多様な価値観や世界を共有し、学びあう場としていければと考えております。これからどうぞよろしくお願いいたします。



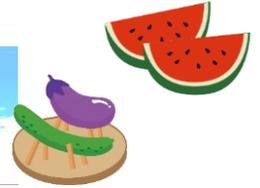
2022年度 通常総会が無事に終了しました!

去る5月28日(土)、当協会事務所横のよかトピア会議室にて、今年度の通常総会が無事に終了しました。「書面表決表」「委任状」によって参加して頂いた会員の皆様に加え、「オンライン」での参加、会場での議事にご協力頂いた2名の役員の皆様にも感謝いたします。

誠に遺憾ながら、昨年度は赤字の決算報告となりましたが、議案はすべて原案通り、可決・承認して頂きました。コロナ禍の影響で不透明な部分が多いですが、今年度からJICA海外協力隊の募集説明会をJOCAが受託しました。九州においては当協会がJOCAから委託を受けております。

新しい職員を迎え、今年度は気持ちを新たに進めていけたらと考えております。

引き続き皆様のご指導並びにご支援を賜りますようお願い申し上げます。(丸田)

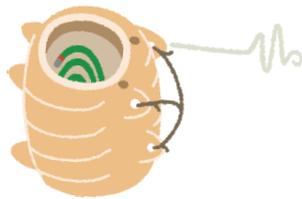


特定非営利活動法人 九州海外協力協会

〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503

TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304

E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp



(特活)九州海外協力協会 ☆会員募集中☆

当協会では、活動にご賛同いただける団体・個人の皆様に募集しております。会員の方には四半期毎に発行しております「九州海外協力協会だより(本紙)」をお送りさせていただいているほか、当協会主催・共催のイベント情報などをご案内しております。ご関心のある方は、以下へお問い合わせ下さい!



今年は3年ぶり!
博多祇園山笠が始まります!
櫛田神社にも飾り山が登場し、
気分は一気に「夏」!!
櫛田神社周辺では法被の男性
たちが沢山居ます。
#博多山笠 #中洲川端
#お祭り

発行: 特定非営利活動法人 九州海外協力協会

〒812-0025 福岡市博多区店屋町4-8 蝶和ビル503

TEL: 092-710-5310 FAX: 092-710-5304

HP: <http://www.npo-kyushu.or.jp/> E-mail: ngoqshuint@npo-kyushu.or.jp

